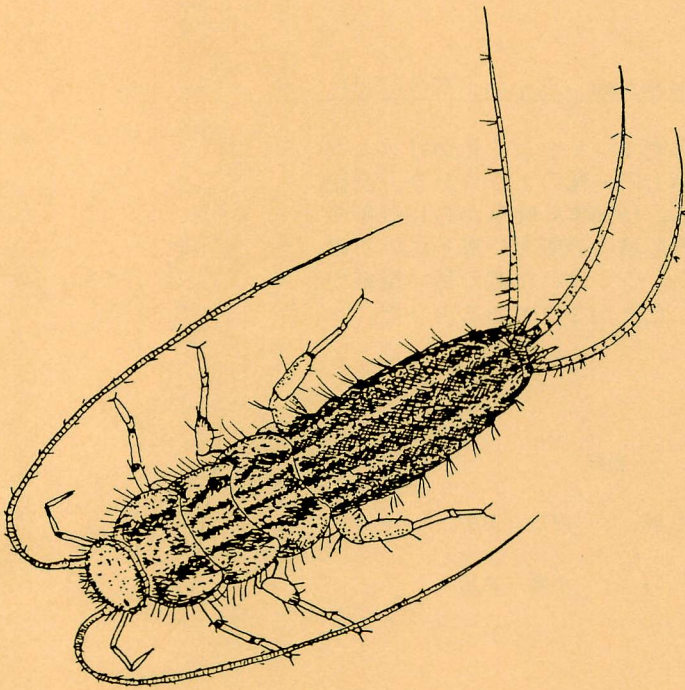
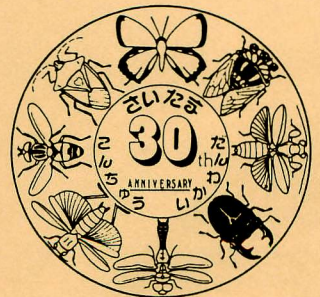


埼玉昆虫談話会

寄世蛾記 No.83



1997. Jun. 1.



「寄せ蛾記」83号 表紙の説明

セスジシミ *Ctenolepisma lineata* (寄居町産)

最近、寄居町の自宅でシミをよく見かけるようになった。どの個体も同一種のようにあり、表記の種名のようなものである。1996年の晩秋から1997年の5月にかけては、母屋室内の壁面や障子にいるのを5回ほど見ている。シミは存在感の薄い昆虫であるが、けっこうしたたかな虫であるようだ。

表紙

図 と 説 明 : 内田 正吉

デ ザ イ ン : 小堀 文彦

.....

埼玉県で得られたアリガタバチ類

寺山 守・南部敏明

.....

アリガタバチ科はセイボウ上科に含まれ、チョウ目やコウチュウ目の幼虫に寄生する習性を持つ体長1-20mm程の小形のハチである。農林業害虫の天敵としての利用を目指した研究が各国で進められる一方、家屋内で人を刺す種類も存在し、人間との関わりの深い昆虫でもある。しかしながら、日本を含めアジアでの本科の分類研究は遅々として進んでおらず、現在のファウナの解明率は20%以下であろう (Terayama, 1996b)。日本のアリガタバチ類は現在3亜科8属13種が知られているが、実際には4亜科16属78種 (1996年12月時点) を認めている。これらの大部分は新種と判断されており、寺山によって日本産本科の総説が準備されている。いまのところ、県単位のまとめた目録として発表されたものは羽田・寺山 (1996) による福井県のもののみで、ここには4亜科7属15種が報じられている。

今回、著者らの所蔵標本を中心に埼玉県産のアリガタバチ類をまとめた結果、4亜科11属23種となった。これらの概要を本報で発表しておきたい。これらの種の多くはまだ学名を持たないが、和名を表記することによって種が特定できるようにした。なお採集者の名の内、芳川陽二氏はYY、南部敏明はTNと略した。

本文に入るにあたって貴重が標本を恵与、あるいは貸与下さった内田正吉、岡本守夫、小西和彦、長谷川道明、芳川陽二の各氏にお礼申し上げる。

BETHYLIDAE アリガタバチ科

Pristocerinae ムカシアリガタバチ亜科

1. *Acrepyris japonicus* (YASUMATSU) ムカシアリガタバチ

岩槻市 1964.7.23, 1♂ (YY) ; 同市 1971.7.29, 1♂ (YY) ; 大宮市 1965.5.18, 1♂ (YY) ; 秩父市川俣 1972.5.21, 1♂ (立川周二) ; 志木市 1972.5.22, 1♂ (T.Saito) ; 越生町 1983.4.29, 2♂ (TN) ; 児玉町 1968.5.6, 1♂ (TN) ; 同町 1970.6.6, 1♂ (TN) ; 同町 1971.6.9, 1♂ (TN) ; 同町 1972.5.17, 1♂ (TN) ; 寄居町 1972.4.29, 1♂ (TN) ; 同町 1976.5.30 1♂ (TN)。

次種とともにこれまで *Pristocera* 属に位置づけられていたものであるが、寺山 (1996a) が世界の *Pristocerinae* 亜科全属の系統解析を行った結果、*Pristocera* 属については *Acrepyris* 亜属を独立した属に昇格させる取り扱いを行い、よって現在本種と次種は *Acrepyris* 属に位置づけられる。

2. *Acrepyris minutus* (YASUMATSU) ツヤムカシアリガタバチ

岩槻市 1971.8.29, 1♂ (YY) ; 同市 1971.8.14, 2♂ (YY) ; 同市 1971.8.29, 2♂ (YY) ; 同市 1971.8.30, 2♂ (YY) ; 浦和市 1965.8.2, 1♂ (YY) ; 江南町 1995.9.19, 1♂ (TN)。

3. *Apenesia* sp. カグヤアリガタバチ

北本市石戸宿 1990.5.26, 1♀ (TN)。

4. *Pseudisobrachium* sp. ナンブクビレアリガタバチ

越生町 1979.6.18, 1♀ (TN).

本属のものとして日本から3種を確認しているが、2種は琉球列島に分布しており、九州本土以北からは本種本個体のみが得られている。本属は好蟻性甲虫の幼虫に寄生するものと推定されている。

Epyrinae ヒメアリガタバチ亜科

5. *Epyris apicalis* WALKER クシヒザアリガタバチ

小川町 1975.3.4, 5♀ (岡本守夫) ; 同町青山 1988.4.16, 1♀ (TN) ; 寄居町 1978.10.16, 2♀ (TN) ; 同町 1979.10.28, 1♀ (TN) ; 同町 1979.10.15 1♀ (TN) ; 吉田町 1970.6.7, 1♀ (TN) ; 神川村 1968.9.16, 1♀ (TN) ; 皆野町 1984.8.17, 1♀ (TN) ; 秩父裏山 1979.7.30, 1♀ (TN) ; 小鹿野町森谷戸 1988.4.16, 1♀ (TN) ; 大滝村 1996.9.3, 1♂ (寺山 守)。

和名は雄の触角が櫛歯状であることに由来する。雌の触角は通常の形態である。実は、学名の *E. apicalis* WALKER, 1874 は *E. apicalis* (MOTSCHULSKY, 1863) に先取されていることから、置換名を必要としている。

6. *Epyris* A アシュラアリガタバチ

寄居町赤浜 1984.6.14, 1♀ (TN) ; 岩槻市 1964.8.31, 1♀ (YY)。

7. *Epyris* sp. B コバネアリガタバチ

岩槻市 1965.7.28, 2♀ (YY)。

前ばねが前伸腹節後縁をわずかに越える程度に退化している興味深い種である。

8. *Epyris* sp. C ハゴロモアリガタバチ

岩槻市 1965.5.23, 1♀ (YY) ; 岩槻市 1964.7.29, 1♀ (YY) ; 同市 1965.5.25, 1♀ (YY) ; 同市 1968.8.20, 1♀ (YY) ; 同市 1971.8.29, 1♀ (YY)。

9. *Epyris* sp. D ヒテンアリガタバチ

岩槻市 1965.5.24, 1♀ (YY)。

10. *Epyris* sp. E イダテンアリガタバチ

岩槻市 1971.8.27, 1♂ (YY)。

これまでのところ埼玉県、鹿児島県、福岡県、福井県から得られている。

11. *Epyris* sp. F ヌバタマアリガタバチ

寄居町玉淀 1984.8.13, 1♂ (TN) ; 寄居町玉淀 1984.8.13, 9♂ (TN) ; 寄居町赤浜 1984.8.14, 3♂ (TN) ; 同所 1984.8.22, 2♂ (TN) ; 同所 1984.8.28, 5♂ (TN) ; 寄居町 1980.7.20, 1♂ (TN) ; 同町 1980.8.25, 1♂ (TN) ; 岩槻市 1964.10.26, 1♂ (YY)。

12. *Epyris* sp. G ショウキアリガタバチ

秩父野上 1971.8.28, 3♂ (YY)。

13. *Epyris* sp. H ヤマトヒメアリガタバチ

岩槻市 1971.7.29, 1♂ (YY) ; 岩槻市 1971.7.29, 10♂ (YY) ; 同市 1971.7.30, 11♂ (YY) ; 同市 1971.8.27, 1♂ (YY) ; 同市 1966.7.21, 1♂ (YY) ; 同市 1964.8.31, 2♂ (YY) ; 同市 1964.8.29, 1♂ (YY) ; 秩父野上 1971.8.28, 2♂ (YY)。

14. *Holepyris atamiensis* (ASHMEAD) アタミアリガタバチ

小川町 1971.8.3, 1♀ (TN) ; 同町 1976.12.6, 1♀ (TN) ; 岩槻市 1971.8.29, 1♂ (YY).

H. atamiensis は原記載以降長い間正体不明の種で、戦前はともかくも戦後においても今日まで図鑑等に登場することのなかったハチである。近年、寺山がスミソニアン自然史博物館 (アメリカ合衆国) に保管されている基準標本を点検し、これによって種を特定することが可能となった。アリガタバチ科の中では比較的普通に得られる種であった。

15. *Holepyris* sp. ツガルアリガタバチ

秩父武甲山 (標高670m) 1993.9.15, 1♀ (内田正吉)。

これまでのところ埼玉県と青森県からのみ得られている。

16. *Laelius* sp. A アシグロアラゲアリガタバチ

川越市喜多院 1974.6.15, 2♀ (TN) ; 江南町野原 1993.9.15, 3♀ (TN) ; 同市同地点 1974.4.1, 1♀ (TN)。

寺の山門の柱に小さな穴が沢山開いていてそれに出入りしていた。ヤスマツニテラ (アナバチ科) とばかり思って採集していた。動作がよく似ている。

17. *Laelius* sp. B キアシアリガタバチ

岩槻市 1966.9.27, 1♀ (YY) ; 同市 1966.9.9, 1♀ (YY) ; 同市 1972.9.11, 1♀ (YY) ; 越生町 1979.7.16, 2♀ (TN) ; 同町 1979.11.19, 1♀ (TN) ; 同町 1977.9.8, 1♀ (TN) ; 同町 1979.7.4, 1♀ (TN) ; 同町 1979.11.5, 1♀ (TN) ; 寄居町 1976.10.?, 2♀ (TN) ; 同町 1973.8.?, 1♀ (TN) ; 同町 1969.9.8, 1♀ (TN) ; 同町 1973.7.15, 1♀ (TN) ; 同町 1989.10.10, 1♀ (TN)。

日本で多く採集されるものの一つで、*Laelius microneurus* の学名で知られているものである。寺山は *microneurus* のタイプ標本をパリ自然史博物館 (フランス) から取り寄せて点検したところ、日本のものは *microneurus* とは別の種で実は未記載種であることが判明した。*microneurus* は欧州に限って分布しており、日本からの記録は恐らく全て誤同定であろう。

18. *Plastanoxus* sp. ムサシケシアリガタバチ

寄居町中小前田 1994.8.27, 1♀ (内田正吉) ; 同所 1994.8.27, 15♀ (内田正吉)。

内田氏宅の納屋の小麦にコクヌスト等が付きそれに寄生していたものと思われる。これまでのところ本県からのみ記録されている。

19. *Sclerodermus nipponicus* YUASA ホソアリガタバチ

飯能市 1972.4.29, 1♀ (H.Kobayashi) ; 同市 1972.5.12, 2♀ (H.Kobayashi) ; 寄居町 1965.5.1, 2♀ (TN) ; 同町 1965.4.17, 1♀ (TN) ; 同町 1981.6.1, 1♀ (TN) ; 同町 1982.8.4, 3♀ (TN) ; 所沢市 1971.4., 1♀ (T.Kuroda) ; 岩槻市 1965.5.23, 1♀ (YY) ; 同市 1965.5.22, 1♀ (YY)。

学名は変更の予定である。パリ自然史博物館所蔵の *Dissonomphalus harmandi* BUYSSON, 1902 (基産地:日光) を検したところ、現在まで *Sclerodermus nipponicus* YUASA, 1930 としていた種と同一のものであることが判明した。また、本種は *Dissonomphalus* 属のものではなく *Sclerodermus* 属のものである。よって学名は *Sclerodermus harmandi* (BUYSSON) に変更される予定である。また、中華人民共和国から記載された *S. guani* XIAO & WU も本種の同物異名である。

Mesitiinae トゲアリガタバチ亜科

20. *Heterocoelia* sp. キシモアリガタバチ

越生町 1979.5.22, 1♀ (TN) ; 江南町野原 1993.9.15, 1♀ (TN)。

頭部と腹部が黒、胸部が赤の美しい種である。また、はねが退化的で、前伸腹節後縁に達しない程度の長さである。これまでのところ、埼玉県、東京都、福井県からのみ得られている。地上30cmほどの葉の上にとまっているのを、アリバチモドキの雌と思って採集した。

21. *Odontepyria* sp. ワシバナアリガタバチ

小鹿野町 1988.7.6, 1♀ (TN).

東洋区とエチオピア区の熱帯・亜熱帯に分布する属でヨーロッパからも1種が記録されている (Terayama, 1995)。しかしながら、本種の分布は北海道から東北・関東・中部地方までで、北方に傾いている点は面白い。

Bethylinae アリガタバチ亜科

22. *Goniozus japonicus* ASHMEAD ハマキアリガタバチ

埼玉県 1966.7.14, 15♀2♂ (K.Uchibori) ; 同 1964.5.18, 5♀ (K.Uchibori) ; 東松山市物見山 1993.4.7, 1♀ (玉木長寿) ; 戸田市新曽 1986.10.15, 3♀ (長谷川道明) ; 寄居町 1979.9.27, 1♂ (TN) ; 岩槻市 1964.8.4, 1♀ (YY) ; 秩父野上 1971.8.18, 1♀ (YY) ; 深谷市 1967.12.11, 1♀ (TN) ; 毛呂山町鎌北湖 1973.5.6, 1♀ (TN) ; 寄居町 1979.9.27, 2♀ (TN) ; 同 1996.7.28, 1♀ (マレーズトラップにより採集) (TN) .

本属は日本で多く採集されるものの一つであるが、これまで *Goniozus japonicus* 1種しか記録されていない。本邦には10種以上が実在することから、同定には注意を要する。

23. *Goniozus* sp. エリハマキアリガタバチ

寄居町中小前田 1994.10.29, 1♀ (内田正吉)。

これまでのところ、埼玉県、東京都、鹿児島県からのみ記録されている。

引用文献

羽田義任・寺山 守, 1996. 福井県のアリガタバチ科昆虫目録. 福井虫報, 19 : 17-20.

Terayama, M., 1995. Phylogeny and distribution of the subfamily Bethylinae (Hymenoptera: Chrysidoidea: Bethylidae). Bull. Biogeogr. Soc. Japan, 50: 1-9.

———, 1996a. The phylogeny of the bethylid wasp subfamily Pristocerinae (Hymenoptera, Bethylidae). Jpn. J. Ent., 64: 587-601.

———, 1996b. A taxonomic synopsis of the Bethylidae (Hymenoptera: Chrysidoidea) of the Oriental region and the eastern part of the Palaearctic region. XX. International Congresses of Entomology, Proceedings (Italy), : 68.

(てらやま まもる 〒113 文京区弥生1-1-1 東大・農・農業生物)
(なんぶ としあき 〒369-12 大里郡寄居町桜沢2397-2)

埼玉県内のラクダムシ若干の記録

豊田 浩二

ラクダムシの仲間は、埼玉県からはラクダムシ *Inocellia japonica* OKAMOTO 1種のみが知られている。成虫を野外で見る機会は極めて稀で、県内では数個体が得られているに過ぎないが、幼虫は生息場所が判明しているので比較的見つけやすい。この幼虫は、主にスギやマツ等の、生木もしくは伐採木の樹皮下に生息し(図1)、他の節足動物を摂食する。沢沿いで高湿の環境を特に好み、大木の樹皮下に多い様である。また、飼育目的で採集の際に、数個体を一緒にの容器に入れておくと、共食いを起すので注意が必要である(図2)。

筆者の住む嵐山町では、ラクダムシは比較的多いようである。恥ずかしい話であるが、1995年に同町菅谷館跡内のスギ林より採集した幼虫を、始め筆者は某アトキリゴミムシの幼虫と思いこみ(本当は全然違う形をしている)、10個体程を一つの容器で飼育していた。気づいたときには既に遅く、共食いのために1匹になってしまっていた。この個体は、小昆虫等を与え続けたところ、3月には蛹化していた。その形を見て、初めてラクダムシだと理解したのである。それからスギの樹皮下に注意をはらう様にしている。

筆者は今回、嵐山町内の調査においていくつかのラクダムシを採集しているので、飼育中のものも含めて、県内の若干の記録と共に報告する。

1 ex, 埼玉県嵐山町菅谷, 7. I. 1995 (幼虫, 羽化, 20. IV. 1995) — (図3) — ; 4 exs, 同所, 9. II. 1997 (幼虫) ; 2 exs, 埼玉県嵐山町鎌形(嵐山溪谷), 9. II. 1997 (幼虫) ; 1 ex, 同所, 10. II. 1997 (幼虫) ; 1 ex, 同所, 11. II. 1997 (幼虫) ; 3 exs, 同所, 18. II. 1997 (幼虫) ; 1 ex, 同所, 20. II. 1997 (幼虫) ; 1 ex, 同所, 25. II. 1997 (幼虫) ; 1 ex, 埼玉県荒川村白久 500m alt., 31. X II. 1995 (幼虫) 以上豊田採集・保管. ; 1 ex, 埼玉県両神村日向大谷 700m alt., 23. XI. 1996 (幼虫, 豊田目撃) .

両神山では、ガロアムシ調査の帰り道に、道脇に生えていたスギの樹皮を剥がした所、潜んでいた幼虫を見ることが出来た。荒川村の白久では、熊倉山の聖尾根へと続く林道の途中で、トチノキの樹皮を剥がして得られた。それぞれ標高700m, 500mの沢沿いの場所であるが、山地での記録は無い様なので貴重であろう。また、県内の分布域については、越冬幼虫調査によりかなり明らかになるのではないと思われる。



図1 アカマツの樹皮下に生息するラクダムシ幼虫(嵐山町鎌形にて)

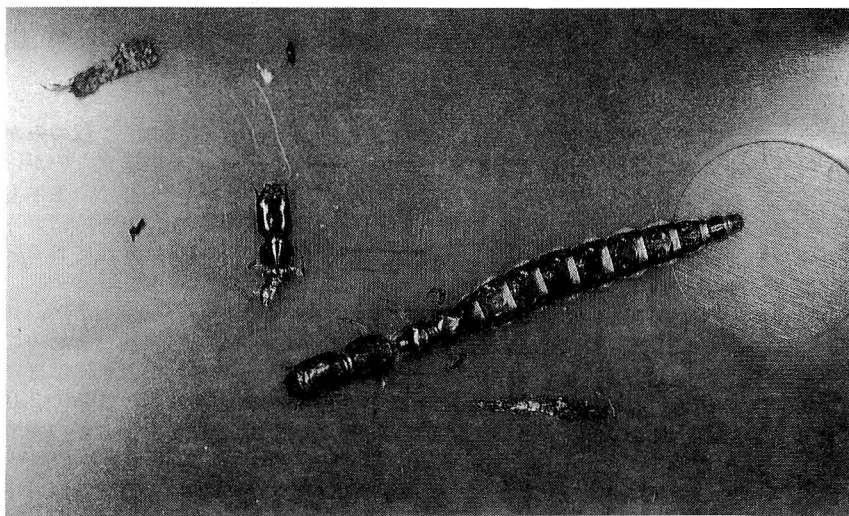


図2 飼育中に共食いをおこした幼虫（喰われた個体の頭部が見える）

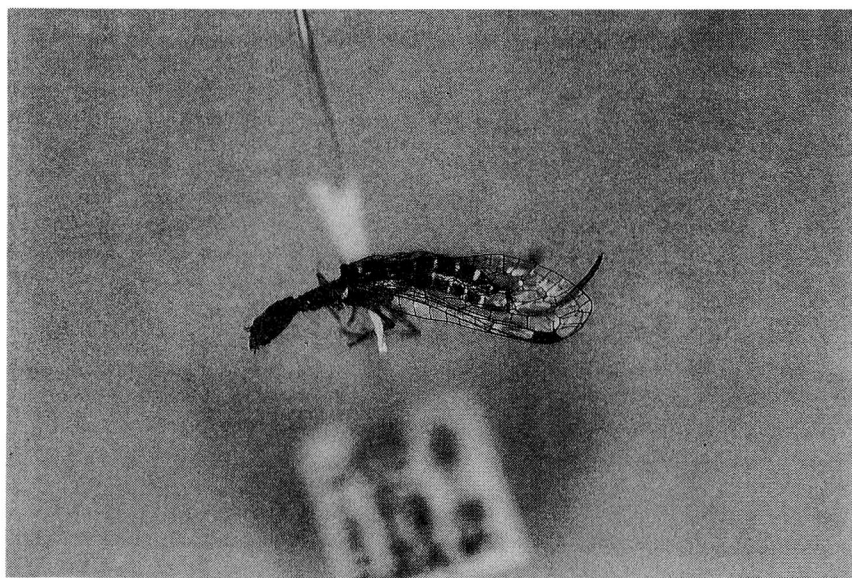


図3 飼育により得た成虫標本（嵐山町産）

《参考文献》

- 牧林 功（1995）北本市のアミメカゲロウ類とシリアゲムシ類（ラクダムシ目）．北本の動植物誌
：247-250.
松本克臣（1996）ラクダムシとキバネツノトンボの記録．寄せ蛾記（48）：2205.

（とよだ こうじ 〒355-02 比企郡嵐山町菅谷686）

• • • • •

気になる北海道の山：夕張岳紀行

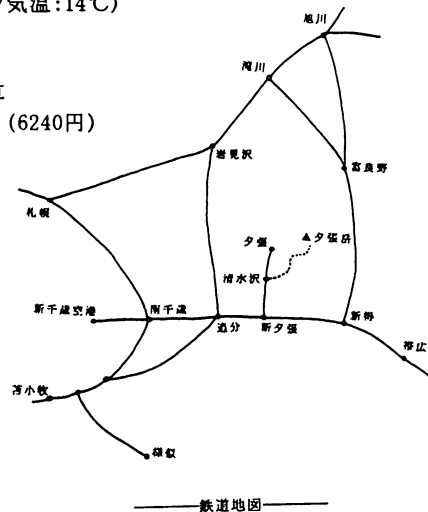
神部 正博

• • • • •

1996年 6月28日から29日に夕張岳へ行きました。この季節の北海道は日照時間が長いので、効率よく山中を移動できました。また、山はよい天気だったものの、最大の目的であった高山草原帯での鱗翅類について、たいした成果はありませんでした。けれど、なぜか楽しい山旅でした。

羽田空港 8:25出発便で千歳空港へ10:10着(天気:曇り/気温:14℃)
新千歳空港駅から南千歳駅へ
南千歳駅から石勝線で新夕張駅へ
新夕張駅から夕張行きへ乗り、清水沢駅(12:56)下車
駅前から待機中のタクシーで夕張岳ヒュッテ手前まで(6240円)

タクシーは旧三菱石炭鉱業鉄道沿いを並走する。この運転手さん、とても明るい方でいろいろと、この土地について話してくれる。その鉄道の跡は現在サイクリング道路になっている。けれど、今は道路管理をしていないという。左に廃線跡を見ながら右に夕張川。そして、シュウパロ湖があらわれる。これはダムであり、来年に規模を拡大するらしい。完成後はこの道路も周辺の住宅も沈むという。タクシーは民家が途切れた頃、目指す林道へ入る。これから進む林道は未舗装だが、荒れていない。深い森のなかを延々と走ってゆく。ただ老木はあまりない。大きな木だった古い切り株が点在し、林相は明るい。



林道終点の駐車場でタクシーを降り、「夕張岳ヒュッテ」へむけ歩き出す。すぐに新鮮なエゾシロチョウ(1羽)を目撃し北海道へ来た実感を得る。(しかし本種の確認はこれ一回だけ)右に夕張岳登山道の「冷水(ひやみず)コース」を確認し、ヒュッテに到着。ここで、ヒグマや残雪状況などを聞いて、登山を始める。

昼飛性の蛾は「冷水コース」起点周辺の林道沿いと、この登山道で若干得られた。そのまま登り続けると、満開のノビネチドリが点在するところへやってきた。ここまで来てはじめて『花の夕張岳』へ訪れた実感が湧いてくる。ここを通過する頃に小雨が降りだしてきた。左手にはスキーマのストック。重量登山では登り道でも便利な感じ。右手にはツナギ草。これ、なにがなんでも手放せない。背中のザックの横に傘を広げて固定し、もくもくと急傾斜の続く道を歩く。

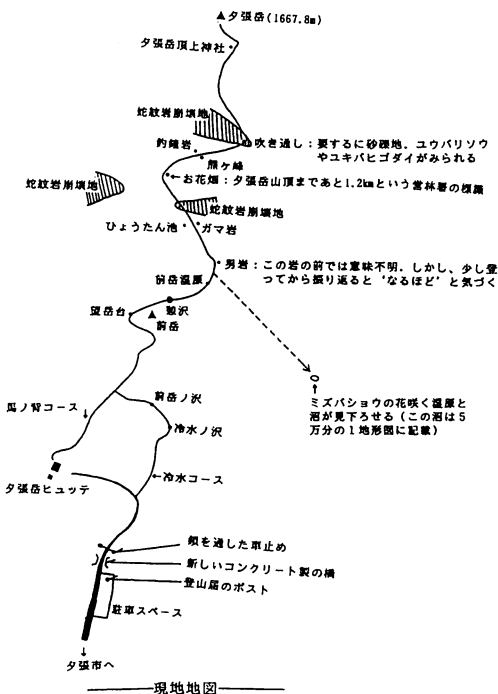
ようやく「望岳台」にでると北方に夕焼けの「蛭(きりぎし)山」の岩塔を2本望む。とても美しい光景である。さらに進むと、登山道では小さな雪溪の横断を繰り返すようになる。「憩(いこい)沢」の直前まで進んだころ、いよいよ日没がせまってくる。すると、道の横にチシマザサを刈り込んだよい空間を発見。(19:30)ここをビバーク地に決める。さっそくガスランタン2台を点灯しスリープをはり蛾の飛来を試みる。しかし、風が強い。また、月齢もよくない。23時まで待つがさびしい状態。でも、鳥の声は終日にぎやか。(後になって思うのだが、夜中に聞こえた『鳥の声』の主、実

はナキウサギだったかもしれない) 登山靴をキタキツネにもっていかれぬよう、ツェルトにいて寝る。

翌朝(29日)の最低気温は、周囲に多量の雪渓があるのに10℃程度だった。予測より、気温が高かったせいか良く眠れた。きのう(金曜日)は、3組のパーティーと会っただけだったが、今日は土曜日。朝食中にヒュッテを早く出たらしい1組のパーティーがもう現れる。

こちらにも荷物をまとめ、軽装で出発。なにせ、このビパーク地点は高山草原帯の端である。今日(土曜日)はツェルトを張ったまま、ほとんどの荷物を残して行動する予定。道沿いなので登山者の往来によってツェルトをキタキツネに荒らされる心配は少ないと思う。緩斜面地帯を軽装で山頂を往復するだけなので非常に快適であろう。朝から天気も良く、うれしくてしかたがない。

「憩沢」周辺は残雪が多かったものの、「前岳湿原」から「お花畑」は最大のハイライトコースである。この登山道沿いなど、さすが夕張岳。固有種など高山植物の花の多さ(種類数・株数とも)にあいた口がふさがらない。行きつもどりつしていると、一般の登山者がぼつぼつ現れる。手にはほぼ全員カメラをもち、プロ風なひとから素人まで撮影に興じている。しかし、虫はいない。こちらもつられて、花々の撮影をしてしまう。次第に登山者が増えてきたこともあり、道沿いから広がる雪渓を利用し、コースから離れ高山蛾を探す。でも、なにもいない。花だけはたくさん咲いている。



ところで、この山でもっとも有名な植物に、ユウバリソウとユウバリコザクラがある。ユウバリソウとはハケ岳、北アルプス、礼文島、あるいは大雪山などに自生するウルップソウ類と同属である。特徴は花の色が紫でなく白色であること。また、ユウバリコザクラはその名のとおりサクラソウのなかま。ユウバリソウは自生地が局所的なものの存在感がある。ユウバリコザクラは、コース沿いで激減状態。

「お花畑」を通過するとすぐに、「吹き通し」へ出る。ここだけなぜか、強い風が吹いている。しかもこの風、とても冷たい。実にもっともな地名をつけている。ここから山頂までは傾斜がややきつい。しかし、周囲の花々に加え眺望がすばらしい。ハイマツの濃い緑と草原の淡い緑。点在する雪田の白。蛇紋岩崩壊地の灰色。山麓の広大な森林地帯。ただ、この森林には当然ながらアカエゾマツなど植林も含まれているはずである。けれど、本州の杉林のような違和感を感じない。さらに遠くの山並など、とても変化に富んでいる。このように、なんとも良い風景である。

頂上直下の窪地にすると「夕張岳山頂神社」がある。このあたり、いかにも虫がいそうな環境と感じる。ここで休憩をとり、虫たちの飛来を待つことにする。でも、虫はとても少ない。そこで、近くの登山者と雑談をする。夕張のヒグマを地元の方は『昔は山頂から数頭の個体が常に見られた』という。けれど、今回は足

跡や糞などの痕跡も見られない。また、山頂直下ではナキウサギが生息していることを知る。その声を時おり聞きつつキバナシャクナゲ(花は終末期)やウラジロナナカマド(満開)などの花々を注視。決して視線は花々から離さない。山頂ではオオイチモンジ(1羽)が現れたがこちらへ接近しない。

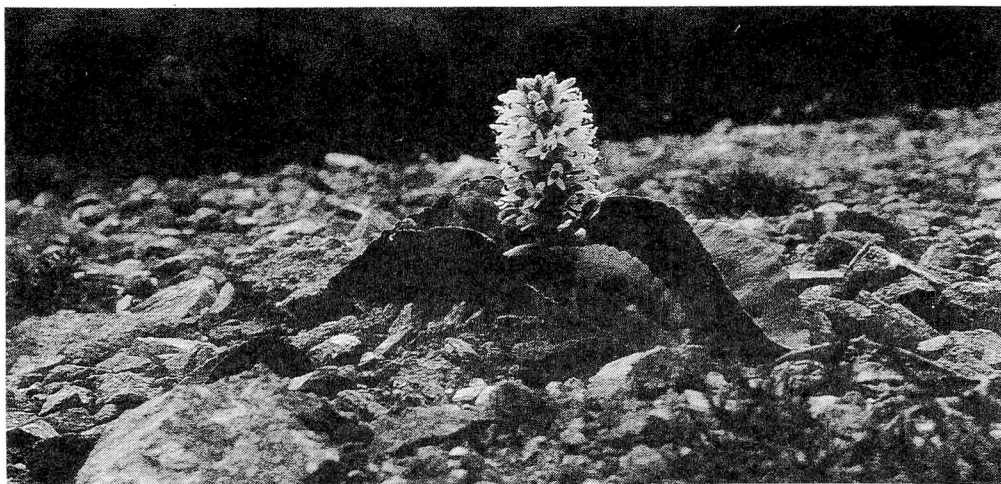
帰路になってようやく「お花畑」で若干の蛾を観察できた。さらにゆっくりとビパーク地点へ引き返す。また、次の行動についても考えなければならない。

食料は十分ある。水も豊富に得られるが、虫があまりに少ない。翌日は日曜日で登山者が急増しそう。また、天候が崩れそうなことから下山と決める。下山中も「熊よけ鈴」をぶらさげて歩くのだが、他人の鈴の音はけっこううるさい。けれど、たまにこの鈴を持たない人がいる。視界の効かないところでガサガサされると緊張してしまう。森林帯では昼行性の蛾を観察しながら夕張岳ヒュッテへ帰る。

このように、今回もっとも収穫があったのは登山口周辺。いちおう、小屋の前で「屋台」をセット。明るいうきがなかったらいいのに・・・ やって来たのはモンキシロシャチホコ (1羽)のみ。

ヒュッテはさすが土曜日の夕方。たくさん登山者が来ている。大半は、札幌方面在住の人々のよう。夕食の御飯を炊いているとジンギスカンをやっている方にまぜてもらいとてもしあわせ。Kさん、ありがとうございました。このように山ヤの雰囲気は北海道と『内地』ではちがうところがある。こちらは、頂上周辺の状況など聞かれた範囲でお答えするくらい。

この山小屋の外見、やわなプレハブ小屋にみえるがちがった。中は太い柱でしっかりとできている。そして、寝場所も十分。となりの人とくつつくことはなさそう。翌日 (30日) は、朝から雨。このため、今回の登山は終わりにする。



ユウバリソウ

本種は蛇紋岩崩壊地と呼ばれる砂礫状の地形に自生している。ここは、本種を筆頭にムシトリスミレの花も多く美しい。ユウバリコザクラはこの砂礫地とハイマツとの境界部でわずかながら可憐なピンクの花をつけていた。遠くからこの砂礫地を望むとただの岩場にしか見えない。けれど、白や黄色、さらに桃や紫色系の花々が多く咲いており、豊かな植性である。

千歳空港では羽田行きの便に空席があったので、予約を変更する。出発まで、すこし時間があるので「ユック」という郷土料理の店で食事をする。実にこの食事はよいものでした。というのも、これまでほとんど自炊だったのです。こうして、ちょっとリッチな食事をすませ飛行機に乗り込む。すると気持ちは急に切り替わってしまう。もう、旅情などあったものではない。これであつというまの北海道旅行はおしまいです。

参考文献

梅沢俊ほか(1992)北海道夏山ガイド⑤ 道南・夕張の山やま 北海道新聞社

(この北海道夏山ガイドは第1巻から6巻まであります。写真が豊富ですので見るだけでも楽しい本です)

鮫島惇一郎ほか(1993)新版北海道の花<増補版> 北海道大学図書刊行会

(かんべまさひろ 〒340 草加市西町 366-7)

.....

.....

1996年 埼玉県内でのトンボ記録

喜多英人

.....

1996年に県内で観察したトンボのうち、生態的に興味深いと思われるものを中心に報告する。なお、全て目撃(撮影)記録である。

オツネントンボ

1996. 3. 31 5～6♂；皆野町国神

連結産卵1

3月に産卵を確認したのは初めて。♂は全て成熟しており、池畔で静止してテロトリーを張っていた。他の♂が侵入すると、飛び立ち、つかみかかるなど、攻撃性が強い。

この日の熊谷の最高気温は23.2℃まで上がった。

1996. 4. 29 交尾2, (10:00, 10:10)；皆野町国神

連結産卵多数

ヒガシカワトンボ

1996. 8. 14 1♂(橙色型)；寄居町折原

ムカシトンボ

1996. 5. 26 1♂；皆野町阿熊川上流

1996. 6. 1 2♂；飯能市間野

ミヤマサナエ

1996. 7. 27 1♀産卵(16:30)；小川町槻川

1996. 8. 11 1♀産卵(16:05)；嵐山町都幾川

1996. 8. 14 1♂；嵐山町都幾川

本種は幼虫及び羽化は両河川で極めて多く観察されるものの、成熟成虫を見ることは稀である。

キイロサナエ

1996. 5. 25 約10exs羽化；東松山市都幾川

1996. 6. 1 1♀羽化(失敗)；同上

1996. 6. 23 3～4♂；同上

2♀産卵(12:15, 12:55)；同上

1996. 6. 29 2～3♂；同上

3♀産卵(8:00, 8:05, 9:10)；同上

1996. 6. 30 2～3♂；同上

3♀産卵(9:12, 11:20, 12:10)；同上

交尾1(12:10)；同上

羽化は、同所で見られるヤマサナエより約20日程遅れる。産卵は、岸の泥を連続的になでるように行い、長いものは20分間継続した。(写真)

交尾は、産卵中の♀を捉え、約4mの樹葉上に静止していたものを1例観察したのみ。

ホンサナエ

1996. 4. 30 羽化数1ex；東松山市都幾川

1996. 5. 2 羽化殻9exs ; 同上
 1996. 5. 4 羽化殻4exs ; 嵐山町槻川
 1996. 5. 25 3♂ ; 東松山市都幾川
 2♂ ; 嵐山町槻川

コサナエ

1996. 4. 29 約100exs羽化 ; 皆野町国神
 1996. 5. 6 約10exs羽化 ; 同上
 1996. 5. 19 1♂2♀羽化 ; 同上(小さなたまり)
 5♀産卵 ; 同上
 1996. 5. 25 4♀産卵 ; 東松山市都幾川

一昨年同様国神では、4月29日に3ケタの羽化が見られたが、昨年は一週間以上過ぎてはまだ羽化する固体が見られ、羽化期がバラついた感じがする。

昨年観察できた産卵のうち、5♀は途中静止して卵塊を排出した後、打空産卵を行った。また、都幾川の産地は、キイロサナエと同所で見られ、完全な流水であることは興味深い。

オジロサナエ

1996. 8. 14 交尾1(12:00) ; 寄居町折原
 1996. 8. 15 交尾2(12:00, 15:00) ; 同上

アオサナエ

1996. 4. 30 1♂1♀羽化(羽化殻約10exs) ; 東松山市都幾川
 1996. 5. 2 約40exs羽化 ; 同上
 1996. 6. 1 2♀産卵(16:30, 17:05) ; 嵐山町都幾川
 1996. 6. 2 1♀産卵(9:30) ; 同上
 羽化は、雨でも多数見られた。産卵は朝と夕方に見られた。

クロサナエ

1996. 5. 26 5exs羽化 ; 皆野町日野沢川
 1996. 6. 1 26♂1♀ ; 飯能市間野

日野沢川では、本種が羽化している場所に成熟したダビドサナエが戻って来ており、産卵も見られた。クロサナエの産卵場所はもっと上流と思われ、ダビドサナエとの生息域と出現時期による棲み分けは興味深い。

オニヤンマ

1996. 8. 10 交尾1(18:00) ; 嵐山町都幾川
 このカップルは夜まで交尾を継続するのだろう。

ミルンヤンマ

1996. 9. 23 交尾2 (14:00, 15:30) ; 寄居町折原

コシボソヤンマ

1996. 7. 27 羽化殻9exs ; 寄居町折原
 1996. 8. 11 2♀産卵 (9:00, 9:30) ; 同上
 1996. 8. 14 2♀産卵(12:40, 13:20) ; 同上
 1996. 8. 15 1♀産卵 (15:00) ; 同上
 1996. 8. 25 2♀産卵(10:30, 11:00) ; 同上

産卵中の♀は、♂が探雌に訪れると、産卵している朽ち木の裏側に回り込み、♂を避ける行動をとった。

クロスジギンヤンマ

1996. 4. 29 1♂2♀羽化；皆野町国神

1996. 5. 6 1♂1♀羽化；同上
1♂(成熟)；同上

ヨツボシトンボ

1996. 4. 29 1♂羽化；皆野町国神

1996. 5. 4 1♀羽化；同上

1996. 5. 6 5exs羽化；同上

ヒメアカネ

1996. 9. 23 交尾3. 単独産卵1；皆野町国神

コノシメトンボ

1996. 9. 23 連結産卵約10(10:00～13:00)；皆野町国神

単独産卵1；同上

単独産卵の♀は、♂を避けるように岸辺の葉かげにもぐりこんで連続打水産卵を行った。

ネキトンボ

1996. 9. 23 連結産卵8；皆野町国神

通常池の中心部で行うが、水面がヒシで覆われていたため、比較的岸に近い解放水面でよく見られた。うち2カップルは、単独産卵に移行した。



写真 キイロサナエの接泥飛翔産卵 1996年6月23日 (東松山市)

(きた ひでと 〒203 東京都東久留米市滝山6-2-15-308)

.....

浦和市・川口市での蛾類採集メモ

神部 正博

.....

筆者は浦和市・川口市で蛾類を採集しているので報告する。

同定、和名・学名は日本産蛾類大図鑑 (1982) に従った。その後の、分類学的な変更は Post-MJ Additions & Changes Edn. 1 (日本産蛾類大図鑑以後の追加種と学名の変更 杉 繁郎 編) The Japan Heterocerists' Society Tokyo October 1994に従っている。なお、種名に付した数字は前掲書のシノニミックカタログ番号である。

以下の記録のうち川口市のデータは築比地秀夫氏に、そして、浦和市のデータは鈴木幸氏に採集面で大変お世話になったのでお礼申し上げたい。

- 78 ハイイロボクトウ *Phragmataecia castaneae* (Hubner)
川口市行衛 (灯火採集) 1♀ 11 Jun. 1988
- 1484 ナカモンツトガ *Chrysoteuchia porcelanella* (Motschulsky)
浦和市南部領辻 (灯火採集) 1♂ 18 Sep. 1994
- 1720 シロアヤヒメノメイガ *Diasemia reticularis* (Linnaeus)
浦和市南部領辻 (灯火採集) 1♂ 18 Sep. 1994
- 1806 ヒメマダラミズメイガ *Elophila turbata* (Butler)
浦和市南部領辻 (灯火採集) 1♂ 18 Sep. 1994
- 1963 オオトビネマダラメイガ *Conobathra obrutella* (Christoph)
川口市行衛 (灯火採集) 1♂ 11 Jun. 1988
- 2191 クスアオシャク *Thalassodes subquadraria* Inoue
浦和市南部領辻 (糖蜜採集) 1♀ 2 Oct. 1994
- 2306 ウスサカハチヒメシャク *Scopula semignobilis* Inoue
川口市行衛 (灯火採集) 1♀ 11 Jun. 1988
- 2314 キオビベニヒメシャク *Idaea impexa* (Butler)
川口市行衛 (灯火採集) 1♂ 11 Jun. 1988
- 2323 ヨスジキヒメシャク *Idaea auricruda* (Butler)
川口市行衛 (灯火採集) 1♀ 11 Jun. 1988
- 2548 ウスアカチビナミシャク *Eupithecia rufescens* Butler
川口市行衛 (灯火採集) 1♂ 11 Jun. 1988
- 2560 ウスキミスジアツバ *Herminia arenosa* Butler
川口市行衛 (灯火採集) 1♂ 11 Jun. 1988
- 2698 ウスオエダシャク *Godonella hebesata* (Walker)
川口市行衛 (灯火採集) 1♀ 11 Jun. 1988
- 3282 クシヒゲコケガ *Nudaridia ochracea* (Bremer)
川口市行衛 (灯火採集) 1♂ 11 Jun. 1988
- 3356 クロスジシロコブガ *Nola taeniata* Snellen
浦和市南部領辻 (灯火採集) 1♀ 18 Sep. 1994
- 3462 キノコヨトウ *Cryphia mitsuhasi* (Marumo)
浦和市南部領辻 (灯火採集) 1♂ 18 Sep. 1994
- 4060 ヒメネジロコヤガ *Maliattha signifera* (Walker)
川口市行衛 (灯火採集) 1♂ 11 Jun. 1988
浦和市南部領辻 (灯火採集) 1♀ 18 Sep. 1994

(かんべ まさひろ 〒340 草加市西町366-7)

.....

三峰山から霧藻ヶ峰の蛾類メモ

神部 正博

.....

筆者は1997年 4月11日から12日にかけて標題の地域(秩父郡大滝村)にて蛾類を得たので報告する。昼間の採集は登山道沿いで行った。今回、特筆すべき種としてカバシヤクがあげられる。本種は埼玉県下で初記録と思われる。

灯火採集は霧藻ヶ峰休憩小屋にて灯油燃料の加圧式ランタン(OPTIMUS:1550G 明るさ:310W)を光源として使用。なお、灯火は18時30分から午前 2時まで点灯した。このとき、蛾類の飛来は日没とともにウスミドリコバネナミシヤクから出現し、エゾモクメキリガが午後11時30分に現われたのが最後であった。また、夜間採集中の気温変化は約10℃から5℃程度まで低下した。

- 1153 ミヤマメスコバネマルハキバガ *Cheimophila fumida* (Butler)
 1♂:11 Apr. 1997 13~14時頃採集 三峰山~霧藻ヶ峰 (標高 1300m前後)
 6♂:12 Apr. 1997 10~11時頃採集 三峰山~霧藻ヶ峰 (標高 1300m前後)
- 2150 カバシヤク *Archiearis parthenias* (Linnaeus)
 1♂:11 Apr. 1997 13~14時頃採集 三峰山~霧藻ヶ峰 (標高 1300m前後)
- 2353 ウスミドリコバネナミシヤク *Trichopteryx miracula* Inoue
 4♂:11 Apr. 1997 灯火採集 霧藻ヶ峰休憩小屋 (標高 約1540m)
- 2549 ナカオビカバナミシヤク *Eupithecia subbreviata* staudinger
 1♀:11 Apr. 1997 13~14時頃採集 三峰山~霧藻ヶ峰 (標高 1300m前後)
- 2766 ウスバシロエダシヤク *Pseuderannis amplipennis* (Inoue)
 1♂:11 Apr. 1997 灯火採集 霧藻ヶ峰休憩小屋 (標高 約1540m)
- 2849 アトジロエダシヤク *Pachyligia dolosa* Butler
 1♀:11 Apr. 1997 灯火採集 霧藻ヶ峰休憩小屋 (標高 約1540m)
- 2871 クロモンキリバエダシヤク *Psyra bluethgeni* (Pungeler)
 1♂:11 Apr. 1997 灯火採集 霧藻ヶ峰休憩小屋 (標高 約1540m)
- 3171 シーベルスシャチホコ *Odontosia sieversii* (Menetries)
 2♂:11 Apr. 1997 灯火採集 霧藻ヶ峰休憩小屋 (標高 約1540m)
- 3588 スギタニキリガ *Perigrappa hoenei* Pungeler
 1♂:11 Apr. 1997 灯火採集 霧藻ヶ峰休憩小屋 (標高 約1540m)
- 3665 エゾモクメキリガ *Brachionycha nubeculosa* (Esper)
 1♂:11 Apr. 1997 23:30に飛来。灯火採集 霧藻ヶ峰休憩小屋 (標高 約1540m)

(かんべ まさひろ 〒340 草加市西町366-7)

.....

入間市鍵山にウスバシロチョウ生息す！

石塚 勝己

.....

以前、1981年に入間市におけるウスバシロチョウ (*Parnassius glacialis* BUTLER) の採集記録を報告した。その後、同所（入間市黒須）では、翌年の1982年5月上旬（正確な日時は忘れてしまった）に授精囊を持たない♀1個体が目撃されたのを最後に、それ以降は生息が確認されておらず、絶滅したとおもわれる。しかし、今年になって、1981年に確認された地点より西方約1 Kmの地点で本種の生息が確認されたのでここに報告しておく（写真－1）。

生息確認地：埼玉県入間市鍵山

確認年月日：1997年5月5日

採集個体：1♂（そのほか20個体以上を目撃）

生息が確認された場所は、図－1（1/25,000の地形図を2倍に拡大）に示すとおり、西武池袋線の入間市駅から仏子駅へ向かって約1 Km程行った鉄道の敷地内で、写真－2に示すように人家が接している。この線路と人家に挟まれた狭い草地で、20個体以上が飛翔していた。そのうち1♂は採集し、展翅してある。同地に引っ越して2年以上経つが、今回たまたま犬の散歩時に偶然発見したもので、比較的多くの個体が飛翔しているのに驚かされた。

入間市黒須で16年前に確認されたのは1個体だけであり、当時、同所周辺を踏査したが、その個体以外は確認されなかった。先に述べたように、翌年の1982年には、未授精の1♀が目撃されただけであり、その後は当地で確認されなくなった。こうした状況から判断して、入間市黒須の生息確認地点のものは、絶滅に瀕した個体群であったことがうかがわれ、現在では絶滅したとおもわれる。

今回確認された入間市鍵山の生息地点では、20個体以上の個体が飛翔しているのが目撃された。生息確認地点は、線路と道路・人家に囲まれた狭い草地で、ウスバシロチョウの食草となるムラサキケマンは、生育していない。線路の反対側斜面の樹林沿いに生育しているのかもしれないが、まだ調べていない。確認地点は、線路沿いの斜面に成立した草地で、線条に分布しているが、狭い範囲であり、周囲は人家などに囲まれている。このように隔離された生息地となっており、今後、この個体群が維持されていくのは難しいとおもわれるが、県内における東限の産地の一つであるため、会として西武鉄道にこの生息地点の保全を申し入れてはいかがなものだろうか。



図-1 入間市におけるウスバシロチョウの生息確認地点

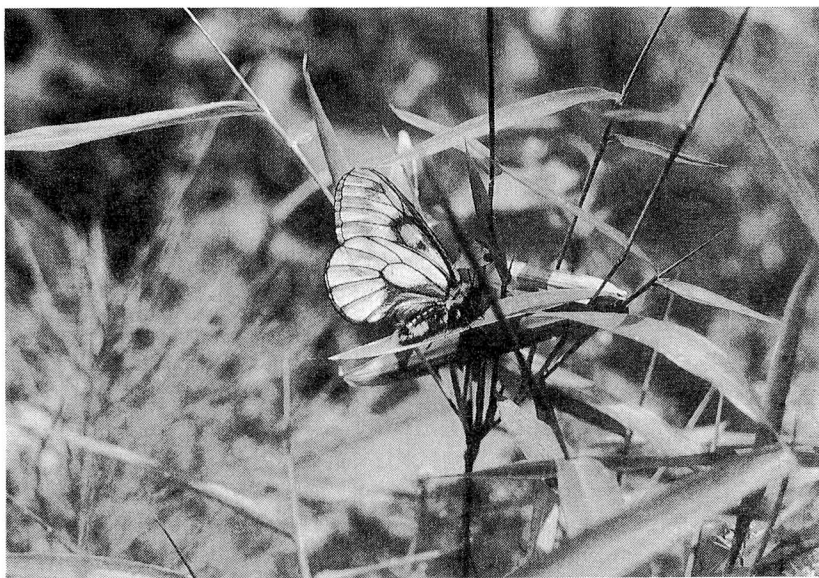


写真-1 アズマネザサの葉上に静止したウスバシロチョウ



写真-2 入間市鍵山のウスバシロチョウ生息地

文献

- 1) 石塚勝己 (1981) 寄せ蛾記, 32:274

(いしづか かつみ 〒358 入間市鍵山 2-5-21)

.....

オカベセボシジョウカイを八潮市で採集

雑倉 正人

.....

オカベセボシジョウカイ *Athemus okabei* Takahashi は、1992年に神奈川県三浦市産の標本をもとに、セボシジョウカイ *Athemus vitellinus* (Kiesenwetter) に酷似した新種として記載された。両者を体型や斑紋で確実に区別することは困難だが、雄の交尾器または雌の第8腹板の形態には明瞭な相違があり、これを見ることにより同定できる。最近、奥島 (1996) は、これら2種の全国における分布を詳細に調査し、セボシジョウカイは広域分布種であり、オカベセボシジョウカイは、南関東から伊豆半島・伊豆諸島に分布が限られるとの結論を出している。特に、伊豆半島・伊豆諸島では、セボシジョウカイが記録されておらず、南関東では両種がごく近接した場所で採集されている。この報文によると、オカベセボシジョウカイは、県単位では神奈川・静岡・千葉・東京から記録されており、山間部よりもむしろ海に近い場所で多く得られている。また本学会誌における最近の報告、即ち牧林 (1996, 1997a, 1997b) 中にも埼玉の本種の記録を見ていないので、筆者の採集記録をここに発表しておきたい。特に県の東南部の平地から、今後も広く発見される可能性が高いので、手持ちの標本には注意されたい。この小文を書くにあたり、埼玉県産ジョウカイボン科の現状をご教示頂いた小田博氏にお礼申し上げる。

Data : 埼玉県八潮市南川崎, 1 ♀, 7. V. 1997, 雑倉正人採集・保管.

河川敷のアシ原のそばにあるヤナギの葉に静止していたもの.

生息数が少ないのかシーズンをはずしたせいかわからないが、他の個体は見なかった.

文献 :

牧林 功 (1996) 埼玉県産ジョウカイボン科の記録. 寄せ蛾記 80 : 2139-2141.

牧林 功 (1997a) 埼玉県初記録種を含むジョウカイボン科の記録. 寄せ蛾記 82 : 2259.

牧林 功 (1997b) 佐々木和男氏採集の奥秩父産ジョウカイボン科について.

寄せ蛾記 82 : 2260-2262.

奥島雄一 (1996) セボシジョウカイとオカベセボシジョウカイ (コウチュウ目, ジョウカイボン科) の分布と色彩変異. 倉敷市立自然史博物館研究報告 11 : 1-13.

高橋和弘 (1992) 神奈川県のジョウカイボン科. 神奈川虫報 100 : 71-124.

(ひなくら まさと 〒112 東京都文京区白山2-20-13 鯉田荘)

.....

浦和市間宮のアカシジミ

中川 利勝

.....

筆者は、浦和市間宮において、アカシジミ *Japonica lutea* の採集および小観察を行っているので報告する。採集個体のデータについては、以下のとおりである。また、観察時の目撃例については報文中に示した。

《データ》	1 ♀	浦和市間宮	17. VI. 1996
	1 ♀ 1 ♂	浦和市間宮	19. VI. 1996

1. 浦和市東部のアカシジミ生息地について

平地性ゼフィルスを代表するアカシジミは、一般的には普通種ということもあり、全国的にみても、詳細な分布調査は必ずしも行き届いているとは言えない。「浦和市」に限ってみても、分布状況を含めアカシジミに関する記録については、質量ともに「県の蝶」ミドリシジミに比べてはるかに及ばない。厳しい言い方をすれば、記録の集積が進めうちに浦和市をはじめ、県南各地で宅地開発等により、生息地の雑木林もろとも葬り去られてしまったとも言える。恐らく、人知れず生き延びてきたアカシジミが、人知れず消えていった地域も少なくないであろう。

浦和市においては、過去には荒川堤防内や駒場周辺のように、東部地域以外での記録もあるが、現在では東部地域に限ってのみ生息するものと思われる。浦和市東部地域のアカシジミ産地としては、古くは三室、大門、見沼通船堀等が知られている。とりわけ大門地区においては、最近でもアカシジミがいるといった噂を耳にするが、筆者自身は未調査のため詳細は不明である。また、古い記録になるが、筆者自身の東部地域におけるアカシジミの記録としては、1960年代に見沼代用水西縁沿いの大谷口および井沼方の雑木林において、1例ずつの採集例がある。現在、これらの地域は雑木林そのものが消滅するなどしており、当然アカシジミの姿はない。

他方、近年の記録としては、1987年の南部領辻（集瀬，1989），1994年の大崎（星野，1996）等の記録が『寄せ蛾記』に報告されている。

恐らくかつては、浦和市東部の見沼代用水東縁西縁沿いに、ベルト状に続く雑木林に沿って大谷口、井沼方、間宮、大門、さらには大崎、南部領辻とアカシジミが多数生息していたのであろう。もとより見沼用水沿いの生息地は、浦和市内に限ったことではないので、既知産地の川口市安行や大宮市御蔵、中川方面にもつながっていたのであろう。現在では、大谷口、井沼方のように生息地ごと潰されてしまった地域も少なくなく、生き残っている見沼用水沿いの生息地でもアカシジミの個体数は少ない。

本報文で観察地となっている浦和市東部の間宮地区は、所謂「見沼たんぼ」に含まれる。近年、環境の保全を前提にした農地の有効利用が推し進められ、有料道路建設ほか、各所でミニ開発が進んできている。アカシジミの生息する見沼代用水東縁の斜面林も、少なからず影響を受けるものと思われる。生息環境については不安材料も多い。

2. 浦和市間宮の観察地

先にも触れたように、観察地の間宮地区は浦和市東部に位置し、見沼代用水東縁沿いに雑木林の斜面林が続いている地域である。観察地においては、クヌギ、コナラ、クリ、シラカシ、ハンノキ、ソメイヨシノ、アオキ等、種々雑多の樹木が雑木林を構成している。下草には、アズマネザサ、クズ、カナムグラ等が生い茂り、管理の行き届いていない放置林といった感じを受ける。植生遷移段階としては、二次林から極相林への移行期に入っているものと思われる。これら斜面林の林縁を切り開く形で耕作地が存在する。この間宮地区には、ミドリシジミの食樹であるハンノキが少ないながら残存し

ているが、筆者は、1994年および1996年にミドリシジミの終令幼虫を確認しており、現在でも個体数は少ないながら、ミドリシジミが生息している。

3. アカシジミ観察メモ

1996年6月8日から29日にかけて、実質10日間であったが、浦和市間宮の観察地においてアカシジミの小観察を行った。以下の記述は、その時の筆者の観察メモを転記したものである。

◎ 1996年6月8日 曇

6:30P.M. 浦和市間宮（以下、観察地とする）の雑木林において、夕刻、アカシジミと思われる飛翔中の個体を観察。黄昏時の上、はるか梢上を飛翔しているため、本種の証となる「橙色」が確認できないが、飛翔の特徴からアカシジミではないかと思われる。主に、クヌギの梢上を休まず飛翔。

◎ 6月12日 曇

6:35P.M. 夕刻、飛翔する1頭のアカシジミらしき個体を観察。この個体は、いきなりクリ畑（花は3分咲き）から飛び出し、耕作地上の広い空間を高度を上げながら、直線的に横切り雑木林の高所へ。今日は、はっきり「橙色」を確認したのでアカシジミに間違いないと確信。

この他、同一個体かどうか不明であるが、クヌギ等の梢上で飛翔する個体を確認。同一個体を目撃し続けているとしたら、個体数は極めて少ないと思われ、この地域の個体群の維持が可能なのか、懸念をもつ。

◎ 6月13日 曇

2:00P.M. 観察地着、周辺調査。暑さもさることながら、湿度が高いせいか非常に蒸す。ミズイロオナガシジミ3頭目撃、うち1頭採集。アカシジミは発見できず、夕刻に期待。

見沼にはキジがいるようで、母子と遭遇する。

6:40P.M. アカシジミ、梢上にて黄昏飛翔開始。クヌギの梢上で、2頭のアカシジミの「からみ」飛翔を複数回確認する。同時に2頭の飛翔中の個体を確認したのは初めてであったが、これで、個体数は少ないながら複数の個体の生息することが判明。世代交代の可能性は充分あり。

◎ 6月16日 晴

5:50P.M. 観察地着。

6:00P.M. 雑木林近くのクリ（花は満開）の木を叩く。クリの樹冠部の花に訪花中のアカシジミが飛び出し、ソメイヨシノの木で静止しようとするが、そのまま高所に移動して行き、雑木林のクヌギの樹上高く飛んでいった。今日は明るい場所で、また近距離で、はっきりと「オレンジ色」のアカシジミを確認。

6:30P.M. を過ぎてから、1個体ずつではあるが、梢上での黄昏飛翔個体を数度目撃。

付近では、カッコウ頻繁に鳴く。夜間は風が出て涼しい。

◎ 6月17日 曇

6:00P.M. 観察地着、少々風あり。ポイントとなるクリの木を叩くも、アカシジミは飛び出さない。

6:20P.M. クヌギの梢上で黄昏飛翔を開始したアカシジミを確認。活発に飛び回るとは言っても、ミドリシジミなどとは異なり、梢上を「舞う」といった飛翔。この日は、折からの風に流され、上空を思うように飛べない様子。

6:35P.M. この気象条件が幸いして、6段つなぎで、上空を飛翔中の個体1♀の採集に成功。1♀捕獲後も、3度にわたりアカシジミを目撃（このうち、同一時間に同一空間を飛翔する2頭のアカシジミを2度確認しているので、個体数は少なくとも2頭以上はいると思われる）。

地元農家の人の話では、観察地周辺ではノウサギが多いとのこと。また最近では、誰が放したのか、キツネが住みついているとのことで、親子連れが何度も目撃されているとの由。

この日も、前日のカッコウ鳴く。

◎ 6月18日 薄曇のち晴れ間あり。強風吹き荒れる。

6:00P.M. 観察地着。P.M.5:00前後から風が強くなり、時折、大木の基幹が風で揺れるほどの強風が吹く。

風のある時は、アカシジミがどうしているか、この目で確認したい。

ミズイロオナガシジミについては下草のクズに静止している個体を発見。強風下、風に飛ばされまいとしっかりと止まっている様子。ネットをさしのべて飛び立たせても、通常のように高所へは上がっていかず、すぐ下草に止まってしまう逃げない。

7:10P.M. 観察地が暗くなり、蝶の姿の確認が困難になるまで、現地で観察を続けたが、アカシジミの飛翔は見られず。ミズイロオナガシジミ同様、アカシジミも強風下では飛ばない。

◎ 6月19日 晴

3:00P.M. 観察地着。真夏を思わせる暑さだが、風があるので幾分和らぐ。夏型のキタテハがやたら目につく。

3:50P.M. 飛翔する1頭のアカシジミ目撃(林縁を飛翔中の個体で、キタテハの追飛を受ける)。

6月には珍しいヒメアカタテハ1♀を採集する。この他、ウラギンシジミ、コムラサキを各1頭ずつ目撃する。

4:10P.M. アカシジミ1♀が耕作地へ舞い降り、栽培種(キキョウ)に止まりながら移動し、クリの花に吸蜜のため訪花した(⇒採集)。

5:50P.M. 風が止む。クリの木の背後の茂みの中から、突然アカシジミ1♂が飛び出し、クリの葉上に静止(⇒採集)。黄昏飛翔を開始するための行動か。夕刻前にも、不活発ながら活動が見られる。

6:45P.M. 梢上で黄昏飛翔を始めたアカシジミを確認。梢上での黄昏飛翔を始める時間が、いつもより遅かった。個体数も最盛期を過ぎたようで、少なくなってきた感じがする。

1頭の飛翔個体に促されるように、別の個体がクヌギの樹冠部より飛び出す。この個体は林縁部を離れ、不活発に近くのカリの木まで舞い降りた。吸蜜を確認、何と6:50P.M.

7:00P.M. 雑木林から雑木林へ、梢上を渡る1頭のアカシジミを確認。

7:20P.M. 夕闇が濃くなり、蝶影の確認ができず、観察を終わらす。

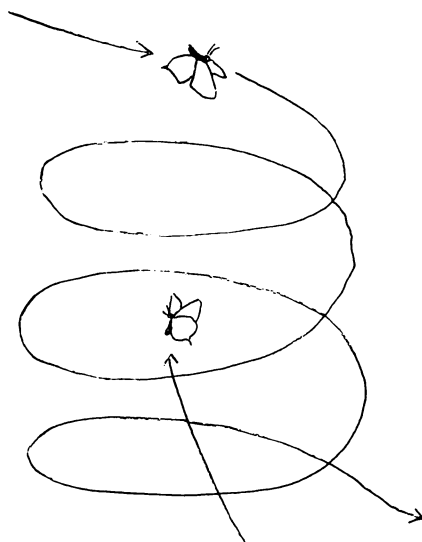
◎ 6月20日 薄曇

6:10P.M. 観察地着。

6:20P.M. アカシジミ梢上での黄昏飛翔始まる。いつものルートを飛び個体が目立つ。30分ほどの観察時間にアカシジミ8個体確認(但し、同一個体を重複してカウントしている可能性も高い)。

同じ組合せの2個体が、梢上で2度「朧どもえ」飛翔をするのを確認。わずかに2秒ほどで離れるが、前日までの観察でみてきた「からみ」飛翔とは異なり、極めて短時間ではあるが、形としては明らかに「朧どもえ」飛翔である。

6:30P.M. 先ほどとは別の組合せの2個体(うち1頭は特に小型)が「からみ」飛翔。小型の個体—この個体は産卵でもしているのか、一本のクヌギの樹冠部に固執し、時折静止をくり返すが、遠くへ飛び離れることはなかった—の周りを、標準的な大きさの個体が、図示のようにぐるぐる回るが、小



アカシジミの飛翔；小型の♀らしき個体の周囲を
螺旋状に飛翔する♂

型の個体の方はほとんど反応しないで飛翔し続けた。この飛翔パターンを2度目撃した。

7:00P.M. 観察地から大門寄りに500メートルほど入った別の雑木林で、梢上を飛翔中のアカシジミを確認。生息密度は薄いながらアカシジミは広範囲に生息している。

◎ 6月21日 曇

6:10P.M. 観察地着。すでに梢上ではアカシジミの黄昏飛翔が始まっている。2頭による出会いがしらの「からみ」飛翔は確認できるも「冗どもえ」飛翔まではいかない。アカシジミは計8頭ほど確認(但し、同一個体を重複してカウントしている可能性あり)。

大白天明神の杜の梢上にも、飛翔中のアカシジミ1頭を確認した。

7:00P.M. 観察を終える。

◎ 6月29日 晴

5:00P.M. 観察地着。

5:30P.M. テリトリーを争う、トラフシジミ夏型2♂を確認。ミドリシジミ4♂目撃し、3♂による「冗どもえ」飛翔をみる。

6:20P.M. 今年のように発生が遅れた年であっても、6月末には姿を消してしまうのか、アカシジミは6:20P.M.を過ぎても現れず。

6:30P.M. 観察を終了し、帰途につく。

表1 浦和市間宮のアカシジミ黄昏飛翔開始時刻

観察日	天気	樹冠での黄昏飛翔の開始時刻	備考	観察日	天気	樹冠での黄昏飛翔の開始時刻	備考
6/8	曇	6:30P.M. ~		6/18	薄曇	確認できず	強風吹き荒れる
6/12	曇	6:35P.M. ~	クワの花、3分咲き	6/19	晴	6:45P.M. ~	真夏を思わせる暑さ
6/13	曇	6:40P.M. ~	異様に蒸し暑い	6/20	薄曇	6:20P.M. ~	
6/16	晴	6:30P.M. ~	クワの花、満開	6/21	曇	6:10P.M. すでに飛翔中	飛翔開始が早かった
6/17	曇	6:20P.M. ~	風あり	6/29	晴	確認できず	アカシジミ、姿を消す

大した成果は得られていないが、以上が小観察の経過である。浦和市間宮のアカシジミの樹冠での黄昏飛翔開始時刻は、筆者の観察の範囲内では、概ね午後6時30分前後に集中していた。また、黄昏飛翔終了時刻についてであるが、いずれの日も午後7時を過ぎ、夕闇で飛翔中の個体の確認が困難になるまで続いていた。因に、アカシジミの日周活動時刻は、地域によって相違しているらしく、要因としては、経・緯度によって生ずる時差や日長時間差などが考えられるという。また、活動を促進する要因として、照度のほか、気温が考えられている。

[引用文献]

福田晴夫他共著(1984) 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ); 103-108.

碓井徹(1971) 浦和市の蝶類 FAMILY Vol. 22; 24.

巢瀬司(1989) 浦和市見沼たんぼにおける蝶 寄せ蛾記54; 964.

——(1990) 埼玉県内の1960年代の蝶の記録 寄せ蛾記57; 1046.

星野正博(1996) 浦和市内のアカシジミ、ミズイロオナガシジミ 寄せ蛾記80; 2142.

中川利勝(1973) 住所地周辺の蝶類 浦和市-浦和・大宮・新所-及び蕨市(未発表); 5.

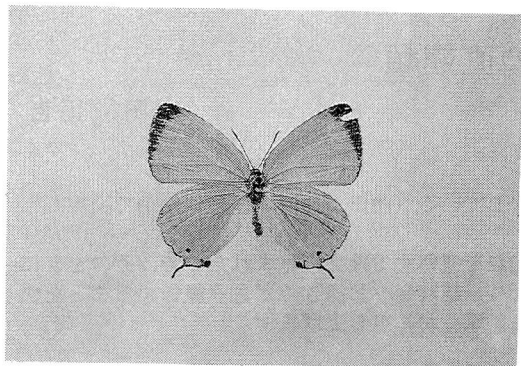


図1 浦和市間宮産アカシジミ♂ 19. VI. 1996 筆者採集

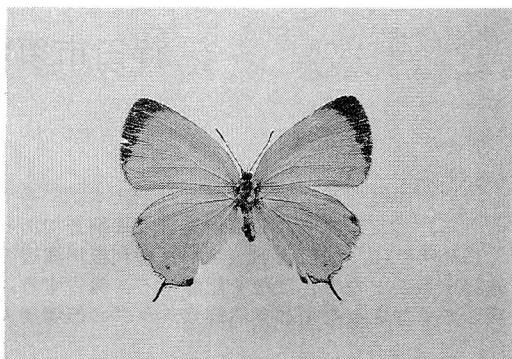


図2 浦和市間宮産アカシジミ♀ 17. VI. 1996 筆者採集

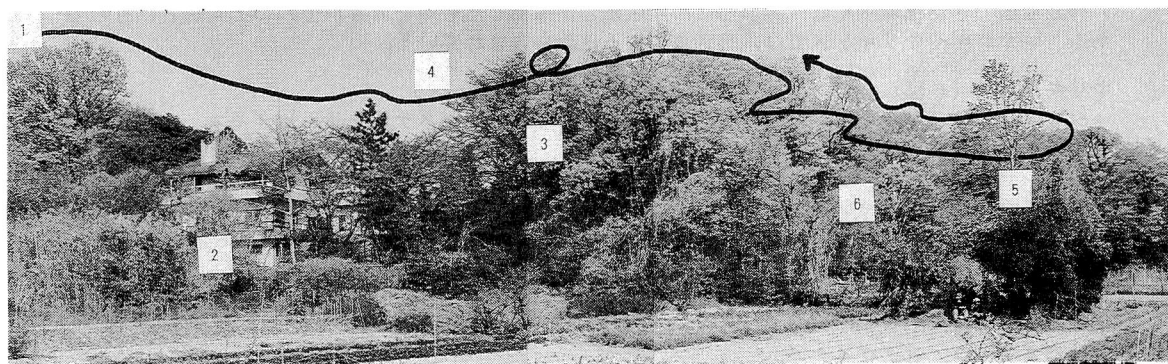


図3 浦和市間宮のアカシジミ観察地

1. →はアカシジミの主な梢上飛翔ルートを示す
2. 吸蜜個体の観察されたクリ
3. このクヌギの大木の樹冠部を中心に飛翔する傾向が見られた
4. 出会いがしらのアカシジミ「㊦ともえ」飛翔が観察された空間
- 5, 6. ミドリシジミの植樹となっているハンノキ

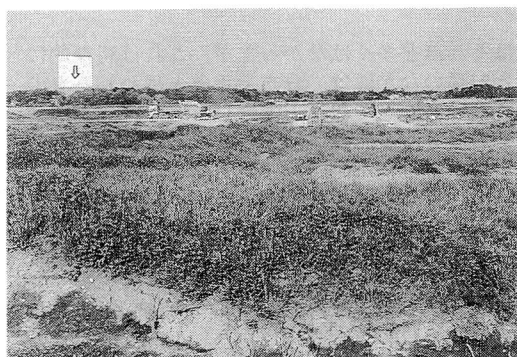


図4 「見沼たんぼ」のいたる所で始まっている開発風景
日曜日も休むことなく急ピッチで進む
↓の位置が浦和市間宮のアカシジミ観察地

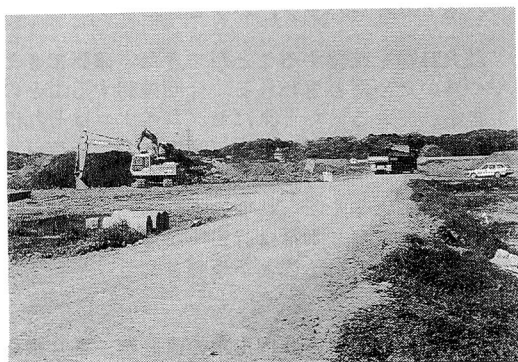


図5 同左

© 図3、4、5とも1997年4月撮影

(なかがわ としかつ 〒333 川口市道合22-1-302)

.....

行田市須加の直翅類

内田 正吉

.....

行田市の直翅類に関しては、以前に本誌67号で報告している(内田, 1993)。そのなかで明記したように、行田市北部の利根川周辺は未調査であった。

1996年秋に、同市須加(すか)の利根川周辺の直翅類を観察する機会に恵まれたので、そのときに確認することのできた種を記録する。報告するにあたり、観察会へお招きくださり報告することを快諾して下さった須加自然観察クラブの飯塚茂夫氏に、厚くお礼申し上げます。

場 所 : 行田市須加(須加公民館～須加小学校付近とその周辺の利根川土手や河川敷)

観察月日: 1996年10月12日 午後2時～6時。天候は曇り。

今回確認できた種の多くは、参加した小学生たちが採集したものを筆者がそのつど同定したものである。コオロギやキリギリスでは、鳴き声による確認も含まれている。

キリギリス科 (6種)

ツユムシ、クビキリギリス、クササキリ、ウスイロササキリ、コバネササキリ、ヒメギス。

コオロギ科 (8種)

ツヅレサセコオロギ、ヒメコオロギ、クマコオロギ、ミツカドコオロギ、エンマコオロギ、シバズ、マダラスズ、アオマツムシ。

エンマコオロギでは、いわゆる「山地型」と思われるかなり黒色の濃い個体が1♂得られた。

オンブバッタ科 (1種)

オンブバッタ。

イナゴ科 (2種)

コバネイナゴ、セグロイナゴ。

セグロイナゴは河川敷の草むらで1ペアのみ見られた。

バッタ科 (2種)

ショウリョウバッタ、トノサマバッタ。

バッタ科ではこのほかに、マダラバッタらしい個体を見ているが、不確かであるのでリストには含めなかった。

ヒシバッタ科 (2種)

ハネナガヒシバッタ、ハラヒシバッタ。

以上21種を確認することができた。確認できた種数はそれほど多くはなかったが、これは時期的にやや遅いためだと思われる。今回確認することのできた21種のなかには、分布上重要と思われるものが含まれている。たとえばセグロイナゴはそれほど多くないバッタであり、山崎(1978)では、本庄市(利根川河原)、東松山市(高坂)、飯能市(宮沢湖)の3ヵ所が記録されている。これ以外では江南町押切、北川辺町柏戸(以上、和田, 1996)や熊谷市桜木町(荒川河原)(内田, 1995)など、県内での分布はやや限られている。また、コオロギ類では、記録がやや少ないクマコオロギの生息が確認できた。ただし本種は行田市からはすでに記録されており(内田, 1993)、行田市周辺の低湿地には広く分布していることが予想される。

引用文献

内田正吉(1993)埼玉県行田市の直翅類。寄せ蛾記, (67):1470-1475。

内田正吉(1995)河原に生息するバッタについて。埼玉動物研通信, (22):1-5。

和田一郎(1996)埼玉県の直翅類について。寄せ蛾記, (79):2102-2112。

山崎柄根(1978)埼玉県の直翅類。埼玉県動物誌:383-398, 3pl。

(うちだ まさよし 〒369-12 大里郡寄居町桜沢1505)

.....

埼玉県昆虫誌基礎資料 (Ⅲ)

吉越 肇

.....

今回埼玉昆虫誌の準備に際し、友人や会員の方たちから多くの甲虫の標本を譲っていただいた。またその後の自己の若干の採集品も含めて、この機会にその記録を発表させていただきたい。残念ながら埼玉昆虫誌の発刊まで未検討で終わりそうなものについては順次機会を見て検討してゆきたいと思う。貴重な標本を恵与下さり、発表の機会を与えていただいた大野勝示氏、町田文彦氏更に碓井徹氏、小田博氏、南部敏明氏、内田正吉氏、築比地秀夫氏の各会員の皆様に深謝申し上げたい。以下の標本はすべて筆者が保管している。

なおデータの記入は、採集頭数、場所（埼玉県は省略）、日付（西暦/月/日）、採集者名の順であるが、地名、採集者などが重複する場合この限りではない。またラベルに従った記入をしているので、表記法は必ずしも統一されていない。

CUPEDIDAE ナガヒラタムシ科

Tenomerga mucida (CHEVROLAT) ナガヒラタムシ

1ex., 秩父郡両神村四阿屋山, 1994/7/30. 小田博.

CICINDERIDAE ハンミョウ科

Cicindela kaleea yedoensis KANO トウキョウヒメハンミョウ

1ex., Shogensawa, Ranzan, 1996/8/22, T. Nambu ; 1ex., Tohyama, Ranzan, 1996/8/22, T. Nambu ; 1ex., 上尾市老丁目 1996/7/23, 碓井徹.

Cicindela specularis CHAUOIR コハンミョウ

1ex., 江南町押切, 1996/5/27, 碓井徹.

Cicindela gracilis PALLAS ホソハンミョウ

1ex., 小川町高谷, 1996/9/15, 碓井徹.

CARABIDAE オサムシ科

Carabus albrechti esakianus NAKANE エサキオサムシ

1♀, 東秩父村登谷山, 1993/6/20, 小堀文彦 ; 1♀, 秩父郡皆野町破風山 1991/5/23, 小田博. (◆両個体とも黒化型である。全体に黒青色を帯び、特に上翅側縁において明らかである。) ; 1♂, 小川町金勝山, 1993/7/17, 碓井徹. ; 1♀, Sengen-yama, Ogawa, 1995/8/3, T. Nambu.

Carabus insulicola insulicola CHAUOIR アオオサムシ

1♀, 小川町高谷, 1996/9/15, 碓井徹.

Leptocarabus arboreus ogurai ISHIKAWA チチブホソクロナガオサムシ
2♀, 秩父郡大滝村雁坂峠, 1993/8/5, 町田文彦.

Nebria lewisi BATES カワチマルクビゴミムシ
8ex., 毛呂山町, 1983/11/27, 大野勝示.

Nebria sadoana BATES サドマルクビゴミムシ
1ex., 秩父郡大滝村雁坂峠, 1993/8/5, 町田文彦. ◆埼玉県初記録と思われる.

Notiophilus impressifrons MORAWITZ ミヤマメダカゴミムシ
1ex., 横瀬町丸山, 1993/7/11, 碓井徹.

Pterostichus planicollis MOTSCHULSKY キンナガゴミムシ
1ex., 小川町高谷, 1996/9/15, 碓井徹.

Pterostichus microcephalus (MOTSCHULSKY) コガシラナガゴミムシ
志木市下宗岡四丁目, (3ex., 1996/4/29; 1ex., 1996/5/1), 大野勝示.; 3ex., 毛呂山町大谷木, 1996/8/31, 大野勝示.

Pterostichus yoritomus BATES ヨリトモナガゴミムシ
2ex., 志木市下宗岡四丁目, 1996/5/1, 大野勝示.; 朝霞市根岸台八丁目, (1ex., 1996/4/24; 1ex., 1996/4/26; 2ex., 1996/4/29; 1ex., 1996/5/1.) ; 1ex., 朝霞市上内間木, 1996/5/1, 大野勝示.

Pterostichus kajimurai HABU et TANAKA カジムラヒメナガゴミムシ
1ex., 志木市下宗岡四丁目, 1996/5/1, 大野勝示.; 1ex., 入間郡毛呂山町大谷木, 1996/3/31, 大野勝示.

Pterostichus musashiensis KASAHARA ムサシノナガゴミムシ
1♂, 4♀., 入間郡毛呂山町大谷木, 1993/11/7, 大野勝示.

Dicranoncus femoralis CHAUDOIR ルリヒラタゴミムシ
1ex., 毛呂山町大谷木, 1996/6/6, 吉越肇.

Colpodes rubriolus BATES クビアカモリヒラタゴミムシ
1ex., 小川町金勝山, 1993/8/20, 碓井徹.

Colpodes lampros BATES コハラアカモリヒラタゴミムシ
1ex., 入間郡毛呂山町大谷木, 1996/6/18, 大野勝示.

Synuchus atricolor (BATES) ホソツヤヒラタゴミムシ
1ex., 入間郡毛呂山町大谷木, 1993/9/28, 大野勝示.

Synuchus cycloderus (BATES) クロツヤヒラタゴミムシ
4ex., 横瀬町芦ヶ久保 (県民の森), 1992/6/20-21, 利根川雅実. 《小田博同定》

Synuchus melantho (BATES) コクロツヤヒラタゴミムシ
1ex., 秩父郡大滝村黒岩尾根, 1993/8/2, 碓井徹.

Synuchus arcuaticollis (MOTSCHULSKY) マルガタツヤヒラタゴミムシ
1ex., 入間郡毛呂山町大谷木, 1996/9/28, 大野勝示.

Amara hiogoensis (BATES) ヒョウマルガタゴミムシ

1ex., 志木市下宗岡四丁目, 1996/5/1, 大野勝示.

Anisodactylus signatus (PANZER) ゴミムシ

志木市下宗岡四丁目, (1ex., 1996/4/29; 1ex., 1996/5/1), 大野勝示.

Anisodactylus punctatipennis MORAWITZ ホシボシゴミムシ

1ex., 朝霞市根岸台八丁目, 1996/4/26. ; 2ex., 朝霞市上内間木, 1996/2/29. ; 2ex., 志木市下宗岡四丁目, 1996/4/29. ; 1ex., 入間郡毛呂山町大谷木. 以上, 大野勝示.

Anisodactylus tricuspidatus MORAWITZ ヒメゴミムシ

1ex., 和光市新倉二丁目, 1996/4/29; 1ex., 志木市下宗岡四丁目, 1996/4/26; 1ex., 入間郡毛呂山町大谷木, 1993/3/31, 大野勝示.

Harpalus capito MORAWITZ オオゴモクムシ

1ex., 小川町金勝山, 1993/8/20, 碓井徹.

Harpalus chalcatus BATES ツヤアオゴモクムシ

毛呂山町 (8ex., 1984/4/29; 1ex., 1984/5/19; 1ex., 1984/6/16). 入間郡毛呂山町大谷木 (1ex., 1996/3/31, 大野勝示; 1ex., 1996/6/16, 吉越肇).

Harpalus creates BATES チョウセンゴモクムシ

1ex., 和光市新倉二丁目, 1996/4/29, 大野勝示. ◆埼玉県では2例目である. 少ないものようだ.

Harpalus corporosus MOTSCHULSKY ヒロゴモクムシ

1ex., 大里郡寄居町山崎, 1995/9/21. 内田正吉.

Harpalus tridens MORAWITZ コゴモクムシ

1ex., 入間郡毛呂山町大谷木 1996/3/31, 大野勝示.

Harpalus tinctulus BATES アカアシマルガタゴモクムシ

1ex., 志木市下宗岡四丁目, 1996/4/29, 大野勝示.

Acupalpus inornatus BATES キイロチビゴモクムシ

1ex., 秩父郡両神村四阿屋山, 1994/7/30, 小田博. ; 1ex., 浦和市塚本, 1996/5/19, 吉越肇, 吉越翠.

Stenolophus difficilis (HOPE) ミドリマメゴモクムシ

1ex., 羽生市上手子林, 1996/5/25, 吉越肇.

Demetrius marginicollis BATES ミズギワアトキリゴミムシ

1ex., 寄居町牟礼, 1995/7/2, M. Uchida.

Lebia bifenestrata MORAWITZ フタホシアトキリゴミムシ

1ex., 小川町高谷, 1995/4/15, M. Uchida.

Dromius batesi HABU ベーツホソアトキリゴミムシ

1ex., 横瀬町芦ヶ久保 (県民の森), 1992/5/23-24, 矢野高広《小田博同定》

SHILPHIDAE シデムシ科

Necrodes nigricornis HAROLD モモブトシデムシ
1ex., 比企郡小川町金勝山, 1993/8/20, 碓井徹.

Silpha longicornis PORTEVIN ホソヒラタシデムシ
2ex., 秩父郡大滝村雁坂峠, 1993/8/3, 町田文彦.

SCARABAEIDAE コガネムシ科

Bolbocerosoma nigroplagiatus (WATERHOUSE) ムネアカセンチコガネ
1ex., 横瀬町県民の森, 1996/8/10, 築比地秀夫.

Onthophagus lenzii HAROLD カドマルエンマコガネ
1ex., 皆野町登谷山, 1996/7/6, 吉越肇.

Anthypna pectinata LEWIS ヒゲブトハナムグリ
1♂, Nohara, Konan, 1993/5/23, T. Nambu (文殊堂) ; 1♂, Ishidojiku. Kitamoto C. 1994/5/10, T. Nambu. (石戸宿) ; 1♂, Kawashima, Ramzan, 1996/5/3, T. Nambu. (鬼神神社) .

Ectinohoplia obducta (MOTCHULSKY) ヒメアシナガコガネ
7ex., 毛呂山町大谷木, 1996/6/16, 吉越肇.

Hoplia commnis WATERHOUSE アシナガコガネ
9ex., 浦和市塚本, 1996/5/19, 吉越肇, 吉越翠.

Paratrichius doenizi (HAROLD) オオトラフコガネ
1♂, 毛呂山町大谷木, 1996/6/16, 大野勝示.

Oxycetonia jukunda (FALDERMANN) コアオハナムグリ
4ex., 羽生市上手子林, 1996/5/25, 吉越肇.

Glycyphana fulvitemma MOTSCHULSKY クロハナムグリ
2ex., 毛呂山町大谷木, 1996/6/16, 吉越肇.

Eophileurus chinensis (FALDERMANN) コカブトムシ
1♀, 川島町上小見野, 1991/11/16, 吉越肇.

TENEBRIONIDAE ゴミムシダマシ科

Menephilus lucens Marseul コツヤホソゴミムシダマシ
1ex., 比企郡小川町金勝山, 1993/8/20, 碓井徹.

Uloma marseuli NAKANE エグリゴミムシダマシ
1ex., 比企郡小川町金勝山, 1993/8/20, 碓井徹.

Heterotarsus carinula MARSEUL スジコガシラゴミムシダマシ
1ex., 毛呂山町大谷木, 1996/6/16, 吉越肇.

CERAMBYCIDAE カミキリムシ科

Purpuricenus temminckii (GUERIN-ME★NEVILLE) ベニカミキリ

毛呂山町大谷木, (4ex., 1995/5/6; 2ex., 1995/5/24), 大野勝示.; 3ex., 1996/6/16, 吉越肇.

Uraecha bimaculata THOMSON ヤハズカミキリ

1ex., 毛呂山町大谷木, 1996/6/16, 吉越肇.

CHRYSOMELIDAE ハムシ科

Smaragdina semiaurantiaca (FAIRMAIRE) ムナキルリハムシ

1ex., 羽生市上手子林, 1996/5/25, 吉越肇.

Agelastica coerulea BALY ハンノキハムシ

6ex., 浦和市塚本, 1996/6/9, 吉越肇, 吉越翠.

(よしこし はじめ 〒331 浦和高砂 3-14-9-402)

.....

クロツヤキマワリの採集例

吉越 肇

.....

クロツヤキマワリ (*Plesiophthalmus spectabilis* HAROLD) は, キマワリ (*P. nigro-cyaneus* MOTSCHULSKY) とくらべると見かける機会が少なく, 今まで筆者が採集している若干の個体は灯火に飛来したものである. 少し前に内田氏 (1996) によって興味深い観察結果が発表されているが, このたび筆者も下記のように観察, 採集しているので報告したい.

9 exs., 埼玉県朝霞市上内間木, 1996年8月3日, 筆者採集.

荒れ地に放置された, 太さ約10cmの広葉樹の朽木の内部から見い出した. 朽木の表面は既に表皮が剥離し, 内部はノコクズ状だった. 本種の成虫はキマワリに較べると脚が短く背部も低く, より朽木内部の生活に適応しているように見えるが, 実際朽木を割った直後には, あたかもオサムシ類のごとくすばやく別の場所へ移動し潜り込む行動を見せるなど, ウスノロ的なキマワリとは少し異なった印象を受けた. なお同時に幼虫と思われるのも同じ場所から2-3頭発見している.

参考文献

内田正吉 (1996) 埼玉県産ゴミムシダマシ科昆虫の採集記録 寄せ蛾記, (78) : 2073-2074.

(よしこし はじめ 〒331 浦和高砂 3-14-9-402)

.....

群馬県と山梨県におけるヨコズナツチカメムシの採集例

吉越 肇

.....

ヨコズナツチカメムシ (*Adrisa magna* UHLER) を次のように採集しているので報告する。

1. 12 exs., 群馬県館林市堀工(ほりく)町, 1996年5月18-25日, 筆者採集.
2. 2 exs., 山梨県大月市富浜町鳥沢, 1996年6月1-8日, 筆者採集.

上記の個体は, すべて糖蜜を主体としたベイトトラップに落下していたものであり, 筆者はこのような経験を今まで持たないが, 本種の生態に関連するものとして報告する次第である.

なお標本は筆者が保管している.

(よしこし はじめ 〒331 浦和市高砂3-14-9-402)

.....

板橋区におけるテングチョウの目撃例

吉越 肇

.....

板橋区においてテングチョウ (*Libythea celtis celtoides* FRUHSTORFER) を次のとおり目撃しているので報告する.

- 1ex., 東京都板橋区坂下3丁目, 1996年12月25日午後0時30分ごろ, 筆者目撃.

筆者の勤務先の事業所玄関付近の, 日の当たるコンクリート上で静止していた. 接近して見たところ新鮮な個体だったが, そのまま飛び去った. 当日は晴天無風で, 東京の午後3時の気温は14.6℃と平年よりも3.7℃高かった.

参考文献

1. 板橋区(1986)板橋区昆虫類等実態調査, p46.
2. 板橋区(1991)板橋区昆虫類等実態調査(・), p57.

(よしこし はじめ 〒331 浦和市高砂3-14-9-402)

.....

毛呂山町のベニバハナカミキリの記録録

吉越 肇

.....

毛呂山町において次のようにベニバハナカミキリ *Palanaspia anaspoides* (BATES) が採集されているので報告する.

- 1ex., 埼玉県入間郡毛呂山町大谷木, 1996年6月16日, 大野勝示 採集

採集地点は, 鎌北湖から流れ出る小河川が毛呂山町営(?)の売店付近にさしかかったあたりで, 河川の上を飛翔中のものをキャッチした. なお当日はクリの花で何種かの甲虫を採集しているが, 発表は別の機会としたい. 採集品を恵与下さり, 発表の機会を与えていただいた大野勝示氏に厚く御礼申し上げる. 標本は筆者が保管している.

(よしこし はじめ 〒331 浦和市高砂3-14-9-402)

.....

埼玉県動物誌における地名の確認について

吉越 肇

.....

埼玉県動物誌(以下動物誌)は1978年に刊行され、その昆虫関係の分野においては故市川和夫さん、南部敏明さん、原勝司さん、斎藤良夫さん、原聖樹さん、野沢雅美さん、山崎柄根さん、長須房次郎さんら、当時から指導的な役割を果たされた方々の手によるものであった。今回我々が埼玉県昆虫誌(以下昆虫誌)を取りまとめるにあたり、大きなよりどころとなっていることは周知のことである。

さて昆虫誌の編集作業中、動物誌を引用する際に生じたいくつかの地名に関する疑問について、今回執筆者の一人である斎藤良夫さんに電話でお話を伺う機会があり、以下の地名の所属市町村が明らかになったので、ここに報告し、昆虫誌関係の編集作業に寄与することを願う次第である。

- ・ 双子山：秩父郡小鹿野町の二子山をさす。
- ・ 川俣：秩父市の川俣(浦山川上流)をさす。羽生市の上川俣、若くは本川俣ではない。
- ・ 荒沢出合および赤沢出合：大滝村、入川上流部。

昆虫誌の作成に御理解を示され、多忙にもかかわらず快く質問にお答えいただき、かついくつかの貴重な文献を御提供いただいた斎藤良夫さんに深謝申し上げる。

(よしこし はじめ 〒331 浦和市高砂3-14-9-402)

.....

浦和市内で採集した蝶

若杉英紀

.....

1. ウラナミアカシジミ (*Japonicas aepestrata*)

- 1991年6月25日 埼玉県浦和市秋が瀬ピクニックの森 1♂
ミドリシジミを見る集いの際、クヌギの枝から叩き出した。破損した個体である。

2. オオウラギンスジヒョウモン (*Argyrorome ruslara*)

- 1993年6月27日 埼玉県浦和市秋が瀬ピクニックの森 1♂
ミドリシジミを見る集いの際、ヒメジョオンの花で吸蜜中の本種を発見した。新鮮な個体である。

3. オナガアゲハ (*Papilio macilentus*)

- 1996年8月28日 浦和市北浦和 1♂
午後1時頃、自宅の庭のクサギの木で吸蜜中の本種を発見した。当日は、朝まで雨が降っており、その後一日中気温は高かったが曇っていた。本個体は尾状突起が片方欠けているが、特に飛び古した個体ではない。

(わかすぎ ひでき 〒336 浦和市北浦和5-15-10 リラティヴ北浦和102)

.....

中津川天牛記 その1

石蔵 拓

.....

1994年の春

3月20日 晴れ。

生まれて初めて埼玉県大滝村の中津川を訪れた。

この地方へ採集に来る者は少ないと聞いて魅力を感じた。

私は宮平から小双里、滝沢、塩沢、中津峡と車を進めた。

周辺の山はダム建設中で伐採が進み禿山になっている。

民家は小双里から先はなくなった。

道は片道車線でS字カーブが多く対抗車が来ると2台通れそうなスペースへバックする。

その繰り返し。しかし大滑トンネルからは2車線の舗装道路となる。

数件民家のある中双里を通りいくつかトンネルを抜けた付近から突然道が悪路となった。

そこは新しいトンネル工事の現場となっていた。

釘でもささったか？

後輪のタイヤを2つともパンクさせてしまった。

車を脇に駐車して民家のある中双里まで長い距離を歩いた。

道側に1軒だけある家で電話を借りることにした。

その家には昔はここで旅館をしていたという老夫婦が住んでいた。

その奥さんが車の故障でよく人がかけこんで来ると言っていた。

電話でJAFを呼んだ。JAFは熊谷から来るらしい。

時計は16時を回っていたので帰宅は夜になると覚悟した。

老夫婦はもてなしてくれて、夕食までごちそうになった。

彼等からダム建設で立ち退いた人の話や民家の激減で猿、猪、かもしか(?)が里に降りてきて畑を荒らす話などを聞いた。

意外と早くJAFが来た。帰宅したのは夜の11時すぎとなった。

4月30日

8時スタート。

13時スギ中津川着。

曇りのち小雨。

中津川へはこれ以上行かない方がいいのではないかと思った。

しかし前回のお礼はしようと思い中津川へ出かけた。

再びダム建設で広範囲に伐採された所を見ると、数年後にはこの採集記録は幻となるのだろう。

記録が少ないままにダムに沈むのは惜しい気がした。

滝沢地区伐採地で小雨模様の中、コメツキ、ヒナルリハナカミキリ、ハムシダマシ採集。

サンショウウオを伐採地に残る湧き水の溜まりに見つけた。

もうまわりには彼等を隠す草木もない。

伐採から逃れた一本のホウノキが弱々しく立っていた。

中双里で前回の老夫婦にお礼を言い、地元の巣鴨地蔵で買ったセンベイをあげた。

小雨だが付近に咲く桜の花でヒナルリハナカミキリ、ハムシダマシを採集する。

5月8日 晴れ

一度のパンクだが、中津川行きへの不安は変わらなかった。

行くのはやめようか？まだ結論は早い。中津川を一通り見てから決めよう。

宮平から中双里を抜けて例のパンクした付近は緊張しながら車を進めた。

それから先は私にはまったくの未知の場所だ。

三国峠と金山の分かれ道で金山のコースをとり小倉沢地区を経て、金山志賀坂林道へ入った。

午前11時—午後1時、落合橋付近で採集。シロトラカミキリ、エグリトラカミキリ、ダイミョウコメツキ。

駐車していた私の白い車にひなたぼっこに来た。

沢にある伐採木から飛び立つコルリクワガタ♂1頭をNET。

その他 コメツキ君、チョッキリ君がいた。

午後1時—午後4時、小倉沢地区の製材所(針葉樹ばかりの土場)で採集。クロカミキリ、オオマルクビヒラタカミキリ、ヒメスギカミキリ、アカネカミキリ、アトモンサビカミキリ。

SWEETINGできる花が見あたらないのはカミキリ屋にはおもしろくない。

採集に来る者が少ないのもうなずける。

5月14日

小鹿野へ出かける。

両神山周辺もひとり見とおそうと思った。

午前11時—午後4時 坂本付近で初めて採集。

ハナムグリ、コアオハナムグリが見られるようになった。ホタルカミキリ(ネムの伐採木)、ヒメリングカミキリ(ホオノキの葉)、シナノクロフカミキリ、フタオビノミハナカミキリ、クロハナカミキリ、ニワハンミョウ、クロナガタマムシ、カメノコテントウ。

伐採材はかなり古い。

SWEETINGできる花が極端に少ない。

5月21日

初めて両神山へ

白井差小屋から三笠山まで登る。登山が目的でなく採集環境の初見が目的である。ヒナルリハナカミキリ、キバネニセハムシハナカミキリ、ビクニセハムシハナカミキリ、フタオビノミハナカミキリ、ヒメスギカミキリ、トゲヒラタハナムグリ、クロジョウカイ。

クロジョウカイ君はBIGサイズ。しばらく飼育したが、ハエ、ハナカミキリ、などの小虫をバリバリ食べる。

花が少なく採集効率が非常に悪い。

ハナカミキリは期待薄。

午後1時

早々に下山して両神村周辺へ。

スミナガシ、キクスイ類がコナラの樹液に来ていた。

アカハネムシの多さが目立つ。ゴマフカミキリも点々という。

ケヤキの伐採木でチャイロホソヒラタカミキリ、ケヤキナガタマムシ、シロテンナガタマムシ採集。

6月以降、次回へ続く(ビャクシンカミキリ登場)

.....

記事の訂正

吉越 肇

.....

筆者が寄せ蛾記に投稿した記事の中に、その後誤りを発見しているので、下記のように訂正する。

掲載号	ページ	誤箇所	訂正(下線部)
No. 76	1957	25. 飯能市矢, 1♂...	25. 飯能市矢 <u>嵐</u> , 1♂...
No. 76	1961	4. 浦和市仲町一丁目...	4. 浦和市 <u>高砂二</u> 丁目...
No. 78	2055	荒川西岸の河川敷で...	荒川 <u>東</u> 岸の河川敷で...
No. 79	2119	...日本橋若松町. 1995年10月(採集)	<u>1♂.</u> 日本橋久松町. 1995年10月 <u>17日</u> (採集)
No. 79	2119	板橋区... (目撃) 1995年10月	<u>1ex.</u> 板橋区... 1995年10月 <u>18日</u> (目撃)

上から2番目と4番目は地名を良く確認しなかったのが原因。

4番目と5番目はとりあえず入力しておいたものを見直しもせずにうっかり提出してしまったのが原因である。

なお、寄せ蛾記(72): 1735における、ミヤマホソハナカミキリ *Idiostrangalia contracta* BATES の記録について、数名の方から近縁の別種ではないかとの指摘を受けている。したがって念のため一度記事から削除し、その後専門家に同定を依頼するなどした後、正式のデータとしたいと思う。

(よしこし はじめ 〒331 浦和市高砂 3-1 4-9-4 0 2)

.....

伊奈町でウシカメムシを採集 の訂正とお詫び

長畑 直和

.....

寄せ蛾記82号(2281頁)に報告した内容で、不適当と判断される部分がありましたので訂正致します。

参考文献 2) の野沢による報告は、参考文献 1) の大野の総説にも収録されており、本文 5 行目 32 文字目から 6 行目 4 文字目までを削除します。

筆者の報告の不適正についてご指摘いただいた大野正男氏に感謝するとともに、関係諸氏にご迷惑をおかけたことに対してお詫び申し上げます。

(ながはた なおかず 〒362上尾市原市11-3 越川グリーンハイツ 5 号)

寄せ蛾記83号 目次

寺山 守・南部敏明：埼玉県で得られたアリガタバチ類	2311-2314
豊田浩二：埼玉県内のラクダムシ若干の記録	2315-2316
神部正博：気になる北海道の山・夕張岳紀行	2317-2319
喜多英人：1996年・埼玉県内でのトンボ記録	2320-2322
神部正博：浦和市・川口市での蛾類採集メモ	2323
神部正博：三峰山から霧藻ガ峰の蛾類メモ	2324
石塚勝己：入間市鍵山にウスバシロチョウ生息す！	2325-2327
雛倉正人：オカベセボシジョウカイを八潮市で採集	2328
中川利勝：浦和市間宮のアカシジミ	2329-2333
内田正吉：行田市須加の直翅類	2334
吉越 肇：埼玉県昆虫誌基礎資料（Ⅲ）	2335-2339
吉越 肇：クロツヤキマワリの採集例	2339
吉越 肇：群馬県と山梨県におけるヨコズナツチカメムシの採集例	2340
吉越 肇：板橋区におけるテングチョウの目撃例	2340
吉越 肇：毛呂山町のベニバハナカミキリの記録録	2340
吉越 肇：埼玉県動物誌における地名の確認について	2341
若杉英紀：浦和市内で採集した蝶	2341
石蔵 拓：中津川天牛記 その1	2342-2343
吉越 肇：記事の訂正	2344
長畑直和：「伊奈町でウシカメムシを採集」の訂正とお詫び	2344
新会員紹介・会員名簿の変更について	2345
正誤表	2345
会報	2346-2347
編集後記	2347